

令和8年1月9日

豊田市長 太田 稔彦 様

下山地域会議

会長 川合 輔宏

提 言 書

地方自治法第202条の7第1項の規定に基づき、「下山地区の農地保全」について、
本書の通り提言します。



下山地域会議委員 一覧

自治区 50 音順・敬称略

氏名	かな氏名	自治区名	備考
東澤 正登	ひがしざわ まさと	阿藏自治区	
中川 康恵	なかがわ やすえ	阿藏自治区	
西尾 方宏	にしお まさひろ	大沼自治区	
林 笑	はやし えむ	大沼自治区	
清水 勝彦	しみず かつひこ	三巴自治区	
筒井 薫	つつい かおる	三巴自治区	
徳永 美恵子	とくなが みえこ	田平沢自治区	
川合 成幸	かわい しげゆき	田平沢自治区	副会長
恩田 友明	おんだ ともあき	花山自治区	
平井 達也	ひらい たつや	花山自治区	
川合 寿佳	かわい ひさよし	羽布自治区	
杉浦 三和子	すぎうら みわこ	羽布自治区	
谷本 佳子	たにもと よしこ	和合自治区	
川合 輔宏	かわい すけひろ	和合自治区	会長

■ 1 地域の現状と問題

- ・中山間地の下山地区では、人口減少や高齢化により農業の担い手が減少し、耕作放棄地の拡大とそれに伴う地域景観の悪化が課題となっている。
- ・令和7年4月に公開された地域計画では、下山地区の農地面積は357haで、そのうち「担い手調整中」が134haで、**その半分程度（60ha）が耕作放棄地と推定される。**
- ・耕作放棄地の解消に向けて、**下山地域営農協議会を中心**に約30haの耕作放棄地の解消を目標に取組が進んでいる。地域会議では残りの約30haの耕作放棄地について、自治区等できる取組手法等を中心に検討してきた。

農地分類	面積	割合	内訳	
			水田	畠
農家（専業農家の農地）	37ha	10%	68%	32%
その他担い手（受託管理農地）	44ha	12%	93%	7%
自作農家（兼業農家の農地）	142ha	40%	87%	13%
担い手調整中（意向不明な農地）	134ha	38%	74%	26%
合計	357ha	100%	81%	19%

（令和7年3月時点、地域計画（下山地区））

【下山地域営農協議会等の取組】（検討事項含む）

- ・農作業受委託システムの普及・拡充（下山地域営農協議会と農協が連携し効率化を推進）
- ・多様な担い手確保（建設業者等他業種からの参入促進、農業法人設立、共同営農法人の支援）
- ・農地バンク制度の活用（所有者登録により、経験を問わず借り手を探せる仕組みを整備）

■ 2 提言までの経過（R5.10～R7.11）

R5.10～12	R6.1～6	R6.7～9	R6.10～12	R7.1～3	R7.4～6	R7.7～11
・テーマ選定 ・地区内農業に関する勉強会	・現状把握 ・課題の洗い出し	・対策案の検討 ・対策案に対する評価付け	・農地管理の絞り込み ・管理法について詳細内容検討	・管理法に対する評価付け ・年度末まとめ	・市内先進地視察 ・地域計画に関する勉強会	・具体的な取組場所・取組内容の意見出し ・実施主体・協力団体についての検討



▲市内先進地視察（小原地区、稻武地区）

▲地域計画に関する勉強会

■ 3 提言の意義と目指す姿

- ・本提言は耕作放棄地を無理なく、持続的に管理していくための方向性を示すものである。
- ・農家や自治区、農協、企業、行政が連携し、小規模な取組から着実に広げていくことで、地域全体を支える農地管理の仕組みづくりを目指す。
- ・さらに、農地の維持管理に加え、地域景観の保全や地域住民・関係人口との交流を通じて、地域コミュニティの再生につなげていくことを目指す。

■ 4 提言（課題解決策）

提言1 省力・低コストな「粗放的農地管理」の導入

下山地域営農協議会等の取組では対応することができない耕作放棄地に対し、自治区等が主体となって取り組める手法として、**省力・低コストな粗放的農地管理を導入する**。具体的には、各自治区の地形条件や農地の現状を踏まえ、住民が主体となって対策案を検討し、**地域の実情に即した対策を展開する**。

対策案	内容
果樹等の植樹 (狭いエリア)	将来的な営農が見込めない農地や中山間部に、果樹や山菜を植える
景観作物の栽培 (中規模エリア)	道路沿いや集落の周辺に管理の手間が少ない景観作物を植え、景観を維持
高性能機械による草刈り (広大なエリア)	ハンマーナイフモアやスパイダーモア、ヤギ放牧などで効率的に除草 ※自治区での所有事例もあり →花山自治区（ハンマーナイフモア）



▲柿や栗等の果樹の栽培



▲ハンマーナイフモア

ハンマーナイフモアとは？

回転ドラムのY字型ナイフで草を叩き碎き、背の高い雑草や小枝まで細かく粉碎できる自走式草刈機。粉碎した草はそのまま土に還るため、作業後の片付けが不要なのが特徴。

提言2 関係人口との連携による持続的な農地管理体制の構築

人口減少と高齢化に伴う農業の担い手不足を補うため、下山地区では、関係人口の活力を積極的に導入する。提言1で示した粗放的管理は、自治区や組単位での実施を想定しているが、草刈りや苗の植樹などの労力を要する作業では、トヨタ工業学園、トヨタ自動車職制会（SX会）、とよた山里応援隊等の外部団体と連携し、持続的な管理体制の構築を目指す。



▲トヨタ工業学園による地域貢献活動



▲トヨタ自動車職制会（SX会）によるボランティア活動

下山地区内の展開イメージ

【～豊かな緑に迎えられ、花に癒される下山～】

自治区	ねらい・効果	手法（例）
阿藏	北の玄関口として景観を整備。ワイルドフラワー やコスモスにより景観発信や観光誘客にもつなげる。	ワイルドフラワー コスモス
大沼	三河湖へ向かう県道沿いの景観を整備。住民・観光客が多く通る地区中心部の改善を図ることで、下山全体への波及効果を期待する。	ワイルドフラワー
三巴	国道301号沿いや大桑川沿いの景観を整備。写真撮影や交流の機会を生み、観光誘客にも寄与。	ヒマワリ ハナモモ・梅
田平沢	わくわく事業にて植栽したハナモモや、広域農道沿いのもみじ街道を維持・活用し、景観スポット化によって地域の魅力発信と交流促進につなげる。	ハナモモ もみじ
花山	自治区所有のハンマーモアで草刈りを行い、景観を維持することで、下山の玄関口としての印象を高め、耕作放棄地解消にもつなげる。	高性能機械による草刈り
羽布	棚田や巴川沿い、三河湖周辺の景観を整備し、世界ラリー等を通じて魅力を発信。景観作物により地域イメージ向上や観光誘客を期待。	コスモス ヒマワリ ハナモモ
和合	三河湖へ向かう県道沿いの景観を向上。集落周辺では果樹を植え、収穫体験を通して地域交流を深めるとともに長期的な農地活用を図る。	ワイルドフラワー 栗、柿、山菜等

[地区内展開のイメージ図]

